

青森県 市浦商工会青年部

除雪を兼ねて雪像製作

保育園に楽しいプレゼント



商工会青年部（八木沢淳部長）は、市浦アトム保育園（長利友子園長）で保育士、父母の会（笹山千貴子会長）らと協力し、除雪を兼ねて雪像作りを行った。

昨年、青年部が「アイスクリーナーアート」と銘打って雪像を製作したところ、たいへん好評だったことから、今年は園児の父母らもまじえて作ることにした。避難口の周辺や屋根の下なども除雪し、安全に通行できるようにした。

園の正門前に完成した雪像は、高さ一・三〜二mのドラえもんやキティちゃんのほか、長さ九mほどの雪の滑り台もでき、登園してきた園児たちは大喜び。色落ちすると園長らがカラスプレーで補修して楽しんでいる。

群馬県 みなかみ町三商工会

「ガラスの里」着々と

JAPANブランド育成支援事業

月夜野町、水上町、新治村三商工会が、今年四月に合併して「みなかみ町商工会」になるにあたり、中小企業庁の「JAPANブランド育成支援事業」の助成を受けた「ガラスの里」計画が目玉されている。

同事業は昨年度に新規事業としてスタートし、すでにある地域の特性を生かして製品の価値を高め、海外に通用するブランド力を確立するのが狙い。全国の商工会や商工会議所が名乗りをあげ、同町のガラスをはじめ、北海道・帯広の「ナチュラルチーズ育成」や静岡・浜松の「とらぶくのブランド化」など三一件が認定されている。

みなかみ町三商工会では、風呂やタイル、瓦、耐熱食器などの開発も進め、海外に通用する地場産業を育て、二年後に

販売額一〇億円、五〇人の新規雇用につなげたいとしている。

ガラス製品は、上越クリスタル硝子（後閑）が作製し、第一弾のデザインを二〇年来の交流がある假屋崎省吾さんに依頼。花器は旅館やレストランのニーズに合わせるため、高さ約一五cmから五〇cmまでさまざまな種類をそろえた。

国道二九一号沿いの小荒井製菓（湯原）では、店舗内の一角に約五〇㎡の「大正口マンギヤラリー」を設置し、照明器具や食器などオリジナル製品一〇〇点を展示・販売している。横五〇cm、縦一・八mのスタンドガラス製看板は、根津桐材（月夜野）が設置した。

JR上毛高原駅や水上駅などにガラスの行灯を並べる構想も進み、試作品が完成しているキャンドルガラスの普及をはじめ、各事業所がそれぞれアイデアを事務所内に示して、順次実現していく予定。三月には、イベントで「ガラスの里」のオープンをPR。子供を対象にしたガラス作りと、プロのガラス職人を目指す人の技術コンテストが目玉となった。

兵庫県 西淡町商工会

融雪瓦を雪国で検証

特産「いぶし瓦」で融雪屋根に

商工会と淡路瓦工業組合は、阪神・淡路大震災後の苦境から復活する取り組みの一つとして、特産のいぶし瓦を使って屋根の雪を溶かす「融雪瓦」を開発した。

淡路瓦は日本三大瓦の一つとされており、震災前は旧西淡町（現・南あわじ市）を中心に二〇〇以上の事業者が操業していた。しかし、屋根の重さが家屋の倒壊に影響したのではという風評被害もあり、震災後の売上は半減していた。

いぶし瓦は表面の約二ミクロンの成素膜が独特の風合いをみせるが、電気を通す特性もあることから、融雪瓦は裏面に電極と配線を施し、瓦そのものを発熱させる仕組みだ。発熱量は瓦一枚で約二〇W、温度は二〇〜六〇℃くらいまで調節可能。



実証実験を中越地震の被災地・長岡市に持ちかけたところ、木造平屋建ての集会場を実験場所として提供され、昨

年十二月には同組合員らが現地入りして屋根の一部を融雪瓦に付け替えた。融雪瓦の部分には効果がみられたので、今後実験を続け、雪解け効果や使用電力量を数値化し、最適な使用方法を探っていく。

長岡市建築住宅課は「電気代が融雪瓦の力ぎでは」と指摘しているが、商工会では「寒冷地や耐震工法に適した瓦の開発を進めてきたので、いぶし瓦が豪雪地帯でも役立てば」と意気込んでいる。

石川県 野々市町商工会

「得意分野」をリスト化

会員相互の交流で販路拡大



商工会が、会員の「得意分野」「仕入れ希望品」などを載せた「受注・発注先リスト」の作成を開始した。これまで商工会では、新規加入者の事業所名、業種などを会報誌で紹介してきたが、情

報は十分とはいえなかった。さらに、町の人口増加で毎年一割弱が入会。脱会するなど会員の出入りが多く、会員相互の交流を促すために企画したものの、約九〇〇の全会員に参加を呼びかけ、商工会のホームページなどで公開する。金沢市、白山市などの取引先をはじめ、身近な販売先、優良な発注先を相互に活用して事業活性化を図るねらい。

リストには、公開に同意した会員の①主要取扱品目、②受注希望（得意分野とPRのポイント）、③発注希望（仕入れたい商品、製品、サービスなど）の情報を具体的に掲載し、事業所名や営業内容などの基本項目、店舗や事務所などの写真も併せて載せている。

二月十五日まで掲載希望者を募集し、ホームページのほか、CDにまとめて希望する会員や事業者に配布する。商工会の経営指導員・斉田敬行さんは「より多くの会員に賛同してもらい、事業の活性化に役立てたい」と期待を語っている。

広島県 商工会連合会 ひろしま夢ぶらざがポイントカードを導入

「ぼっぼカード」で楽しくお買い物

広島市中区本通にある広島県の特産品のアンテナショップ「ひろしま夢ぶらざ」は、二月二日（木）から、ポイントサービスを開始した。

県内三三商工会、五一四加盟店の共通カードとして使用されている「ぼっぼカード」を導入、夢ぶらざでも買い物を通じてポイントをためる楽しみを味わってもらうようにした。

ぼっぼカードは、平成九年九月に商工会地域の共通カードとして、広島県商工会連合会（加島英俊会長）が、主として中山間地域に位置する商工会の商業振興や地域購買力の向上、大型店対策等の観点から導入したポイントサービス事業で、公募により平和をイメージする鳩から、「ぼっぼカード」と命名された。

同連合会が運営するひろしま夢ぶらざとしても、顧客サービスを充実させるとともに、商工会地域のぼっぼカードを広く利用できるように導入することになったもの。

商工会地域のぼっぼカード保有者は、広島市内でもカードを使える場所ができた



ことにより便利となり、また、夢ぶらざの常連客の間でも「イベントへの参加やカードをお買物券として利用するなど、ポイントをとめる楽しみが加わった」と評判になっている。

広島市内で利用できる場所は少ないものの、導入一〇日後には、近隣の商工会地域のお客様が満点カード（ポイントが貯まり五〇〇円のお買物券としてご利用）を夢ぶらざで利用したり、また、導入から一週間で三〇〇名を超えるカードの申し込みがあったことから、夢ぶらざでは「今後ともポイントサービスを活用した販売促進を計画していきたい」と、新たな事業展開への可能性が広がることを期待している。

なお、ぼっぼカードは、全国的にもユニークな地域還元事業として、お客様が満点カード（五〇〇ポイント・五〇〇円）で買物すると、一枚につき一〇円をお客様の指定された小中学校・PTA活動に助成する「教育助成制度」もあり、関係者から喜ばれている。



大分県 商工会連合会

「酒楽創菜」ブランド展開

県産ハーブで高級惣菜ギフトセットに

県商工会連合会（清家孝会長）は、国内外で通用する地域特産品の育成を目的に、全国商工会連合会などが実施する「JAPANブランド育成支援事業」の助成を受け、県産ハーブを使った高級惣菜シリーズの開発に取り組んできたが、このほど試作品が完成した。

「焼酎やワインに合い、和風テイストのアンテナイパスタ（イタリア料理の前菜）」をコンセプトに、県産の食材、数種類のハーブと焼酎などを調合した特製タレを隠し味に使ったシリーズは、「酒楽創菜」（しゅらくそうざい）の商標でブランド展開をめざす。

トセットで首都圏の百貨店・ホテルなどに売り込む。

企画したのは、ハーブ加工・販売を手がけるファイナンド・ニューズ（大分市、商工会地域の食品関連企業六社で、その商品や技術を活用した。輸出を視野に入れ、一月には香港・サンフランシスコで市場調査を実施し、二月には見本市「東京ギフトショー」に出展し、小売業者らの反応を探った。ファイナンド・ニューズ社の高野清CEOによると、「素材のよさを引き出すハーブの香りの調整が決め手」といふ。

「スッポンスープ」「ブリのユスコシヨウづくり」「イワシのオイル漬け」「トマトソースの鶏肉煮込み」「ホウレンソウのカレーディップ」「タコのカルパッチョ」など一〇点で、当面は数点を詰め合わせたギフト

長野県 根羽村商工会

「母乳せっけん」いかが

母乳せっけんに続き生産開始

商工会は今年から、希望者の申し込みに応じて「母乳せっけん」作りを本格的に開始する。依頼主の母親から母乳一―五mlを冷凍して送ってもらうと、オリーブ油・「コナツ油・パーム油などを混ぜ、約一リットルのせっけんができる。

二〇〇四年に商工会では地元産大豆で「豆乳せっけん」を商品化し、〇五年には「第一九回ニッポン全国むらおこし展特産品コンテスト」非食品部門で全国連会長賞を受賞した。

その研究の際に職員が「母乳せっけん」の作り方を知ったのが取り組みのきっかけとなり、〇四年夏から試作を始め、〇五年までに二家族の希望で母乳せっけんを製造した。

母乳せっけんは泡立ちが超微粒で、赤ちゃんの肌に優しい。国内ではこれまで個人が作っていたというが、商工会女性スタッフが手作業で加工し、四〇日間自然乾燥させて完成する。無香料、無着色、保存も二〇年ほど可能。

子育ての夢と愛を形に残す母乳せっけんは、村特産・根羽スギの化粧箱に入れ、村の四季を伝える花木を添えて発送される。一つ五〇〇円。

特産品のお茶を有効活用しようとして、商工会女性部（中西貞部長）は茶殻を利用した枕を作り、町内の特別養護老人センター（山下晃施設長）を訪れて贈呈した。

三重県 度会町商工会女性部

お茶を活用、茶殻で枕

老人施設に寄贈

中西さんの祖母が作っていたのを思い出しながら作った枕は、部員らが茶殻を捨てずに天日で三―五日間ほど乾燥させ、茶殻七〇〇gと茶の実三〇〇gを詰めて作る。お茶の香りと茶の実のほどよい硬さで、心地よい仕上がりが。

「いい香りに包まれて長生きしてほしい。今後とも地場産業活性化のために、いろいろと工夫していきたい」と中西さんは語っていた。

茨城県 波崎商工会青年部

ブロードカート普及でNPO

海辺のスポーツ、大会もめざます



三輪の台車に帆をつけて、風を受けて時速二〇〜三〇キロメートルで砂浜を駆けるスポーツ。幼児から高齢者まで幅広い層が楽しむことができる。

波崎地区は二キロメートルにわたり海岸線が続いていて、年間を通じて六メートルの風が吹き、ブロードカートに適していることから、NPO法人を立ち上げて普及に取り組むことになった。

商工会（稲垣輝夫会長）の青年部有志が中心となって、NPO（特定非営利活動法人）「SeaWINZ」を立ち上げた。

市民の健康増進に貢献するとともに、研修会や講習会を発売に行い、地域リーダーとしてのスポーツ指導者の養成にも力を入れている。四月から十一月までの期間、一般市民を対象にした体験教室を開き、指導はインストラクターの資格を持っている三名の青年部員があたっている。

成事業や、青少年の育成事業、地域環境の保全・美化運動なども手がける。現在、会員数は青年部員や一般市民など一九名で、理事長には前青年部部長の篠塚栄一氏が就任した。



ブロードカートはニュージーランド生まれの新しいセーリングスポーツであるのは、神栖市のほか沖繩県、千葉県だけだが、SeaWINZでは今年十月に関東大会の開催を目指している。さらに、二〇〇七年には、世界規模の大会を目指し、環境と人材育成にも力を入れていく計画。

秋田県 由利本荘市商工会女性部

お守り袋で合格志願

地域の未来の希望を込めて



商工会女性部由利支部（橋明子支部長）は、一月二十五日、市内の由利中学校を訪れ、三年生に菅原神社のお守りを贈呈した。

このお守りは、学問の神様・菅原道真公を祀った同神社のお祓いを受けたお札を、女性部のメンバーが真心を込めて縫ったお守り袋に入れて完成したもので、地域の未来を担う子どもたちの志望高校合格を祈願し、地域を明るく元気にしようという企画された。

五六人の生徒を代表してお守りを受け取った安部節也さんは、「地域のたくさんの方に応援されていると感じました。がんばりたいと思います」と感謝の言葉を述べていた。

愛媛県 野村町商工会青年部

「子どもを見守り隊」発足

青年部が児童の安全支える



商工会青年部（近藤政晴部長）は、全国で子どもを狙った事故が相次ぎ、小学校の子どもを持つ会員も多いため、一月に「子どもを見守り隊」を結成。町内の小学校・中学校を対象に、揃いのジャンパーを着て下校時間に通学路などの警戒に当たっている。

一月九日には野村小学校（上甲和博校長）で発足式が行われ、近藤部長が「何かあったら私たちに声をかけてください」と挨拶、児童代表がお礼の言葉を述べた。

このほか、商工会会員の自宅にも「子どもSOSの家 私達は子供達を守ります」というステッカーを貼り、近藤部長は「青年部だけではなく、町全体で子どもたちを見守る気運を高めたい」と語っている。

福島県 松川町商工会

オリジナル弁当で町おこし

ふるさとのアイデアと食材生かして



商工会は、平成十六年十月に東北地方振興局などが開いた「うまいもの発見!けんぼく秋まつり」のふるさと自慢アイデア弁当コンテストで優秀賞に選ばれた作品を商品化した。県の地域づくりサポート事業の補助を受けて進めていたもので、一月十七日、会員らが組織する松川弁当商品化委員会によるオリジナル弁当「八丁目宿」「八丁目宿味彩弁当」が完成。商工会館で委員会委員ら約一〇人が参加して披露会が開かれた。

「八丁目宿」は、地元のニンジン、タケノコ、県産のエゴマ豚を使った煮豚などがおかずで、価格は九〇〇円（税込み）。「八丁目宿味彩弁当」は、ワラビ、シイタケなどにイクラやエビを添えた夏期限定商品で、値段は七五〇円（税込み）。いずれも、松川町産の無農薬で栽培した「シヒカリ」を使っている。

寺島文英委員長は、「昨年四月から協議を重ね、すばらしい弁当が完成した。広くPRしたい」と語っており、道の駅、福島松川パーキングエリア、町のイベントなどで販売する予定。

